

質 問 順 位	9	質 問 者	館 内 孝 夫 議 員	
件 名	項 目	要 旨		メ モ
1. 財政	1. 消費税増税延期と市の財政について	1. 2014年4月の消費税増税で滝川市は、約6,000万円の影響額となった。報道では「地方全体の増収分と見込まれた1兆7,000億円程度が入ってこなくなり、自治体は社会保障費の確保に、臨時財政対策債の発行額を増やすなど対応に迫られそうだ。」とも言われている。①報道のような対応が必要と考えるか。②滝川市の一般財源は、増税延期で、助かるのか困るのか。2014年度のような支出増の影響は出ないので助かるのではないか。		
2. 子ども・子育て支援	1. 学童保育について	1. 昨年の第3回定例会での一般質問で、東地区と北地区のコミセンの学童保育について質問させていただき、その答弁で、「定員は超過傾向ではあるが、毎日来る児童もいれば、たまに来る児童もいて、定員枠内に収まっている。」ということであったが、新年度に入り、5月の新聞記事では「3年連続で定員超過」「19人待機状態」という記事が掲載された。本市の児童数は減少傾向にあるが、学童保育の利用者は増加の傾向にある。今後の利用者数をどのように見込んでいるか。		
		2. 学年別の利用割合は、1年生～3年生の95.4%、4年生～6年生は4.6%。待機児童は4年生～6年生が13名と多い。厚労省の資料「放課後児童クラブの運営指針」では、小学校入学から12歳までの対応がわかりやすく掲載されているが、本市の「たきかわ学童クラブのしおり」を見ると、選考条件として、低学年であること（1年生、2年生、3年生を優先）と書かれており、厚労省の指針と合わない。4年生からは部活動を選ぶ児童もいて選択肢が増えるが、それぞれの学年が同じく学童保育を受けられる機会を設けるべきではないか。		

質 問 順 位	9	質 問 者	館 内 孝 夫 議 員	
件 名	項 目	要 旨		メ モ
		3. それぞれの学童クラブに配置されている厚生員、そして代替員（サポート）は何名いるか。また厚生員と代替員にかかる経費を伺う。		
		4. 待機状態の児童については、児童館・こども教室を利用する選択があると思われるが、周知徹底されているのか。		
3. 土木行政	1. 河川・排水路の維持管理について	1. 近年、天候の変動による激しい豪雨などのため、河川や排水路の修繕や維持管理が、ますます必要になってくると考えられます。同じような悩みを抱えている自治体も少なくないと思いますが、本市においては、河川や排水路の維持管理は、どのように進められているか。		
4. 幹線バス路線確保	1. 国・道の補助金削減の動きについて	1. 報道によると「国土交通省が、道内の赤字バス路線の補助金を減らす方針を道やバス業者に通知した。（中略）、補助の対象である25社167路線の赤字総額が35億円に上る。国の補助が減らされれば、不足分については、地元市町村やバス業者が追加負担を迫られたり、路線廃止につながったりする恐れもある。」（9日付け北海道新聞）道によると、滝川市関係では北海道中央バスが7路線で地域間幹線系統確保事業の補助対象事業費（本年度計画）合計は1億7,871万円、空知中央バスが2路線で補助対象事業費合計は約3,153万円で、合計は2億1,024万円です。①9路線の維持は、定住自立圏構想や総合戦略、人口減少対策などにとって不可欠であり、国の補助率低下で、本数減などはあってはならないと考えるか。②このような一方的なやり方は、寝耳に水ではないか。政府・与党から何か情報はあったのか。③関係市町が国・道の減額分の負担を求められるようであれば大変な支出増になる。政府・与党に対し、緊急に補正予算による措置を求めるべきであり、対応について伺う。		